

# 営農ウィークリーNEWS

## ジャンボタニシの防除は

### 収穫後の冬期耕うんから！！

今年は、過去2年被害の大きかったトビイロウンカの被害はありませんでしたが、ジャンボタニシ、カメムシの被害が目立ちました。今号では、ジャンボタニシの冬期の防除対策について、もう1度確認します。



株元を食害するジャンボタニシ

冬季にジャンボタニシの約8割が、6cm以内の土中に潜って越冬します。また、 $-3^{\circ}\text{C}$ では3日、 $-6^{\circ}\text{C}$ では24時間で死亡します。大きな貝は土に潜れないので越冬率は低くなります。

#### 《防除対策1》

冬季にロータリーの回転を早くし、速度をゆっくり耕うんします。殻を割ったり、傷つけたりすることで殺すことができます。特に大きな貝ほど、破碎されやすいため、1回の耕うんで約7割が死滅します。また、寒気にさらされたものは死ぬ確率が高くなります。

#### 《防除対策2》

水路の泥上げをしましょう。水路に泥がたまっていると、貝は泥に潜って越冬し、春に用水とともに田んぼに入ります。



ジャンボタニシの大きなものは、冬のロータリー一耕1回で7割が死滅

## —TAC information—

### 石灰窒素によるジャンボタニシ防除



石灰窒素による、ジャンボタニシの防除方法があります。やり方は、刈り取り後の水田を3~4cmの湛水状態にし、そこに、10a当たり20~30kgの石灰窒素を散布して、3日間、 $17^{\circ}\text{C}$ の水温で湛水状態を維持する方法です。これにより8割以上のジャンボタニシが死滅するとしています。特に、30kg施用では90%以上のタニシが死滅する結果が出ています。管内には、収穫後は用水が止まってしまうところが多いため、できる地域が限定されますが、このような防除方法もあります。

## 今後注意すべきその他の病害虫等

### 1 チャトゲコナジラミ（チャ）

10月中旬現在、京都府全域で発生を認めている。

本種の農薬による防除は、冬期（1～2月）のマシン油乳剤の2回散布が有効である。ただし、赤焼病の発病を助長する。そのため、マシン油乳剤を散布する3日から7日前に銅水和剤を事前に散布すると、これを予防できる。

#### 野菜

#### 1 軟腐病（キャベツ、ハクサイ、カブなど）

ほ場の排水に努め、雨水が停滞しないようにする。施肥は、窒素過多にならないよう注意する。台風等の風雨による傷や泥のはね上げにより発病が助長される。また、キスジノミハムシ、コオロギ等食葉性害虫の食害痕から細菌が侵入して発病することが多いので、強い降雨の後や害虫の被害が目立つ場合は、早期防除に努める。

#### 2 トマト黄化葉巻病及びトマト黄化病

トマト黄化葉巻病は、黄化葉巻ウイルス（TYLCV: Tomato Yellow Leaf Curl Virus）の感染により引き起こされる病気で、症状は、先端部の葉が内側に巻く、葉縁が黄化、株の萎縮等で、タバココナジラミによって媒介される。

トマト黄化病はトマト退緑ウイルス（ToCV: Tomato chlorosis virus）の感染により引き起こされる病気で、症状は葉の一部の葉脈間が退緑及び黄化し、生理障害の苦土（マグネシウム）欠乏の症状に類似し、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミによって媒介される。府内での発生を本年6月に初確認している。

詳細は令和3年8月6日付け「発生予察特殊報第1号」を参照。

[https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2021\\_01.pdf](https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2021_01.pdf)

#### 3 タバココナジラミ類

10月中旬現在の発生量は、施設キュウリや露地ナスで平年比多い。

タバココナジラミ類は世界中に分布し、多くのバイオタイプ（形態的な区別が難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統）が存在する。本州では在来系統（バイオタイプJpL等）、バイオタイプB、バイオタイプQが確認されている。

バイオタイプQは薬剤感受性が低く難防除害虫であるので、以下の3点を防除対策の基本事項として、防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

#### ◎施設内にコナジラミを「入れない」。

- (1) 開口部の防虫ネット被覆。
- (2) 黄色粘着ロールの展張。
- (3) 近紫外線カットフィルムの使用。

#### ◎施設内・施設周辺のコナジラミを「増やさない」。

- (1) 発生初期の防除の徹底。
- (2) 薬剤のローテーション防除の実施。
- (3) 天敵や微生物農薬の有効利用。

#### ◎施設内からコナジラミを施設外に「出さない」。

- (1) 開口部の防虫ネット被覆。

### 4 ネギべと病

本年（令和3年）は、2月下旬から発生を認めている。平均気温が15～20℃で降雨が多くなると、ほ場にすき込まれた罹病残さ等に潜伏している病原菌の活動が再び活発となるので、本病の発生には十分注意する。